

優秀賞に作田氏(奈良)

タップアワード 学生賞は立大生に

タップは14日開いた博氏(大妻女子大学教授)「2016年度タップユザー会」で「第9回タップアワード表彰式」を行った。同アワードは、「ホテル・旅館全般に関わる、優れたアイデア・事例・提言などを顕彰することにより、業界の発展に寄与する」ことを目的に、同社が毎年実施している論文コンテストで、一般の部と学生の部に分かれている。今回は27本の応募があった。

同アワードの選考委員は、藤野公孝氏(選考委員長、国際観光文化交流協会会長、全日本シティホテル連盟会長、流通経済大学教授)、玉井和

博氏(大妻女子大学教授)、丸山英美氏(サイグナス社長)、飯野智子氏(フェイスアップ社長、公立はこだて未来大学非常勤講師)、村上実氏(オータパブリケイションズ専務取締役)の5人が務めた。

優秀賞は、奈良県立大学国際交流室の作田典子氏による「ヒーリングインパウンド」が受賞。作田氏は、ストレス対策としての東洋的瞑想法に着目。日本全国の檀家のいなくなった寺や神社、広い居間のある民家の畳スペースを活用して行う、ストレス軽減を目的とした「禅」によるコンテンツ



受賞者と選考委員

解したうえで、ゲストには既存の宿泊施設が民泊かを、選択・利用してほしいなどと結論づけた。また今回、九州国際大学の福島規子教授による「日本のおもてなしの理論的考察」ハイコンテックストサービスを手掛かりとして」が特別賞に選ばれた。特別賞受賞の理由について飯野選考委員は、「応募27本の中で、文章構成力、論理性が秀でていた。観光学博士号を持つ大学教授で、長年の旅館コンサルタント経験もあるプロによる論文であり、他論文と同列での評価は難しい」と説明。

内容は「おもてなしサービスについて」「ハイコンテックストサービス」と言語化、表現し、「規格型サービス」と対比して論ずるなど、大変示唆に富んでいる」と述べた。「江口英一」

ユーザー会に約360人

タップ 導入宿泊施設650軒超に

宿泊施設専門の情報システム会社、タップ(東京都江東区、清水吉輝社)は14日、同社ユーザーのホテル・旅館などから360人以上を招い

て、「2016年度タップユザー会」を東京都墨田区の東武ホテルレバント東京で開いた。清水社長は同社の現状を報告。同社システムの導入宿泊施設数が、昨年は100施設以上増えて合計で650施設以上になったと述べた。その上で、導入施設の客室規模は最小が4室、最大が2007室で、「あらゆる

規模の宿泊施設に対応している」と話した。導入施設の形態については、宿泊主体タイプ36%、リゾートホテルタイプ32%、シティホテルタイプ22%、旅館タイプ7%、その他3%とした。

また、ホスピタリティ専門ITソリューション会社、C&RMの小林武嗣社長が「収益最大化を目的としたIT分析術」

と題して講演。「IT投資は全体最適化を狙わなければならない。その場しのぎで、部分最適化を繰り返すと、いつまでたっても全体の整合性が取れず、かえって高くつく」と指南した。外資OTA

国内OTAについては「(自社サイトを中心に)据えた需要予測を出してから客室を提供しても十分に間に合うのではないか」と提案した。